教会を建て上げる　　マタイ 16:13～20

世の中にキリスト教会、つまり建物の上か入り口あたりに十字架を掲げているところは世界中にあります。日本はクリスチャンは人口の一パーセント以下ですから教会を見つけにくいですね。しかし大体、統計上世界の人口の約三分の一２０数億人はクリスチャンですので教会の数も相当あるわけです。しかし、数多い教会も始まりは今日の主イエスのことばによります。18 節の「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」この言葉は、教会とは何であり、その教会と私とはどういう関係があるのかということを教えています。

新約聖書で特に福音書の中で一番最初に教会という言葉が出てくるのがこのマタイ 16 章の箇所であり、それはイエス様が語られました。ちなみに福音書の中でもう一つ教会ということばが出てきますがそれも同じマタイの福音書でイエス様が語られています。そもそも教会とはイエス・キリストのことばから始まったものです。ですから私たちがそれぞれが思い描いている教会のイメージに沿って教会とはああかな、こうかなと類推することは一部は当たっていてもそれで全てというわけではありません。丁度、目の不自由な人達がそれぞれに大きな象に触れて、ある人は足を触って、象とは大きな木のような動物だと言い、ある人は鼻を触って、象とは大きなへびのようだと、めいめいが感じたまま話すことに似ています。

それではイエス・キリストは教会についてどう言っておられるのでしょうか？　それは最初に言いました 18 節の「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」ということばに凝縮されています。これはイエス・キリストが「あたながたはわたしをだれだと言いますか？」という問いに対してペテロが「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と答えました。それが正しい答えであったがゆえにイエス・キリストは応答されました。それが「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます」ということばです。このことばの中に教会を理解する上での大切な３つのことばが出てきます。「わたしの」、「わたしは」、そして「この岩の上に」がそれです。そのことばを見てゆきます。

１.「わたしの」―「キリストのもの」としての教会

先ず主イエスは、「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」と語られました。「わたしの」という所有代名詞は強調的な言葉です。教会の所有者は主イエスであると言われています。教会とは主イエスのものということです。ですからペテロたちに、自分たちの名前で教会を立てるのではなく、イエス様のものとしての教会の建設に加わるようにと語られました。私たちは日常会話の中で、「私たちの教会」とか、「私の教会」という所有代名詞をつけることがあります。それは教会に対する所属意識と親しみをもって表現するためで、それ自体悪いことではありません。或いは、教会の創立者を記念し、感謝の意を込めて「なになに先生の教会」とか、良い意味において「〇〇牧師の教会」といった呼び方をすることもあります。しかしながら厳密にいえば、このような言い方は少なくとも聖書的ではありません。

それでは、新約聖書は教会にたいしてどのような呼び方を行っているのでしょうか。コリントの教会は、「コリントにある神の教会」１コリント１：２と呼ばれています。パウロが迫害したのは「神の教会」（1 コリント１０：９）でした。その他「神の」教会という呼び方は合計８回出てきます。「キリストの教会」（ローマ１６：１６）という言い方もなされています。つまりどこの地域にあろうと、どれだけ集まっていようと教会は神のものであり、キリストのものであるということです。

教会とはキリストのものなのだ、という本来の意識を持つときに、どんな気持ちが私たちに生まれるでしょうか。その一つは教会に対する尊敬です。確かに教会はある意味、地上にある、しかも欠点の多い人

間の集まりであると言えます。しかし、どんなに沢山の欠点があったにしても、教会は本質的にはキリストのものなのです。その理解に立つと、安易な教会批判をすべきでないことは明らかです。「うちの教会は・・、あそこの教会は・・」と評価することばを耳にすることが誰でもあると思います。教会の欠点、足りなさ、弱さについては痛みを感じても良いのですが、同じキリストのからだに自分も属しているわけですから、その欠点を我がものと感じつつ、しかし、所有者であるキリストの故に尊敬を払うべきではないでしょうか。もう一つの起こってくる気持ちは愛です。キリストを愛することはキリストのものである教会を愛することです。キリストは愛しているけれど、教会は愛せないというは矛盾しています。欠点を多く見出だしたとしても、いやそれだからこそ、その弱さに自分の身を当てはめ、労することによって愛を表したいものです。

２.「わたしは」― 建設者なるキリスト

次に主イエスは、「わたしが・・・建てる」と語られました。つまりキリストは教会の所有者であると共に建設者でもあるということです。ペテロに対して、主イエスは「あなたがたが・・・建てなさい」とはおっしゃっておられません。新約聖書の他の場所を見ましても、「教会を建てるのはあなたがたである」というような表現は見当たりません。むしろ、キリスト者たちがキリストのみ体である教会として建て上げられるように「この方にあって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにあって、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」エペソ２：21、22 という受け身的な表現が使われています。

しかし教会の建設者がキリストであるという聖書のことばがあるからと言って、私たちは傍観者であってよいということにはなりません。パウロは１コリント３章において、「私は植え、アポロは水を注いだ」（３：６）と人間的な労をしっかり認めています。植物の成長のためには、種をまくもの、水を注ぐものの存在が必要です。この場合、種をまくとは福音を伝えることです。水を注ぐとは教えたりする働きのことです。人間が福音の種をまき、人々を教えることは大切ですし、それは教会成長に大きく貢献することは確かです。ただそれが教会成長の主な理由なのではありません。何よりも神の働きかけが決定的な教会成長のカギを握っているのです。つまり私たちが頑張れば教会が成長するということではなく、だからと言って傍観者のように見ていれば成長してゆくものでもないということです。パウロは、植える者、水を注ぐものが出来ることはわずかであり、育て給うのは神だ、と神様の要素を強調します

教会建設において神が主導権を持っているという真理が私たちに与えるメッセージは何でしょうか。一つのメッセージは謙遜です。もし外から見て教会が成長しているように見える時、私たちは自分のやったこととしてそれを誇ってはならないのです。すべて神がなし給うという意識は、私たちを謙らせます。同時に、神が教会の建設者であるという真理は私たちに信仰を与えます。例えば仮に教会の状況が余りうまく行っていないように見える時でも、「私たちが力不足だからだ」と思って落ち込む必要はないのです。私たちは果たすべき役割をしっかり果たす、しかし、成長させなさるのは神ご自身なのだという大胆な信仰を持ちつつ、すべてを主に委ねたいと思います。

３.「この岩の上に」― キリストが土台

16：18 の「岩」とは何でしょうか。カトリック教会が主張するように、ペテロ自身、そしてその後継者と言われるローマ教皇のことではありません。これは、「あなたは、生ける神の御子キリストです」と

ペテロが語った信仰告白の続きです。主イエスは、この告白はペテロの思い付きの発言ではなく、神の啓示によるとされました。「このことをあなたに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」と主イエスは言っておられます。ですから、ペテロの信仰告白であると理解することができます。

言葉を換えれば、教会の土台はキリストご自身なのです。パウロは「その土台とは、イエス・キリストです」１コリント３：11 と語りました。その同じ節に「すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできない」とも記されています。さらにエペソ人への手紙の中で、同じことを少し違ったニュアンスで言っています、「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」（エペソ２：20）使徒と預言者とは、霊感された神のみことばである聖書に示された教えのことでしょう。私たちは、時代がどう変わろうとも、人々の考えや哲学がどう変わろうとも、変わることのない聖書の真理を究めつつ、その教えに固く立ち続けたいと思います。

４．教会が天国への入り口

18、19 節には教会が天国への入り口となることが書かれています。教会はたとえか細い存在に見えても、そして実際そんなに目を見張るようなことは出来ませんが主イエス・キリストのことばによって始まっていますからどんなものをもってしても邪魔をしたり、消し去ることは出来ません。それは死さえも出来ません。ペテロが告白したように主イエス・キリストこそ救い主であり、私の罪からくる罰を身代わりに受けて下さったことを信じるならあなたも天国に入れるのだと主イエスは言われるのです。世の中に様々な目的に沿って組織、集まりがあります。しかし、その目的は人間が考え、営んでいるものです。しかしキリスト教会は神である主イエス・キリストによって始められ、主イエス・キリストのことばを受け入れる者に天国への入り口を用意してくださっているというのです。ですから、全ての人は死を迎えますがクリスチャンはこの主イエス・キリストのみことばを信じて、死を迎えますので天国が約束されているのです。一人でも多くの方にこの福音を伝えたいと願わされます。

おわりに

今日は教会についてみ言葉から学びました。来週の主日午後には教会総会が持たれます。予算、決算、報告、計画そして今年は役員選挙とすべて人が関わってくることです。なんだかんだ言っても、人が来、行動しなければ教会は動き出さないと思いやすいものです。しかし聖書は主イエス・キリストこそ教会の主、教会建設者であることを示しています。教会は主イエス・キリストを頭としてクリスチャン一人一人がそのからだを構成しています。ですから教会が成長するかどうかは一人一人が主イエス・キリストをどのように見、どのような思いで仕えてゆくかにかかっています。今年も喜びと感謝をもって主に仕えてまいりましょう。